

Book Preview

富山高校図書館 2025.9



『 僕には鳥の言葉がわかる 』

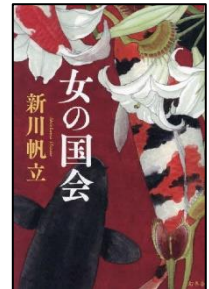
鈴木 俊貴【著】

NHK『ダーウィンが来た！』をはじめ国内外のメディアが注目する気鋭の若き動物言語学者による初の単著ついに刊行！古代ギリシャ時代から現代まで、言葉を持つのは人間だけだと決めつけられてきた。しかし、シジュウカラたちは、それが間違いであることを教えてくれた。人間には人間の言葉があるように、鳥には鳥の言葉がある。シジュウカラは言葉を使って文を作る。世界を驚かせた研究者が綴る、大発見に至るまでの鳥愛あふれる研究の日々。

『 女の国会 』

新川 帆立【著】

野党第一党の高月馨は窮地に追い込まれた。敵対関係にありつつも、ある法案については共闘関係にあった与党議員・朝沼侑子が自殺したのだ。「自分の派閥のトップも説得できていなかったの？法案を通すつもり、本当にあったの？」死の前日の朝沼への叱責が彼女を追い詰めたのではないかと批判が集まり、謝罪と国対副委員長の辞任を迫られてしまう。だが、長年ライバル関係を築いてきた高月には朝沼の死がどうも解せない。朝沼の婚約者で政界のプリンス・三好顕太郎に直談判し、共に死の真相を調べることに一。



『 ハヤブサ消防団 』

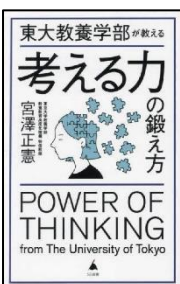
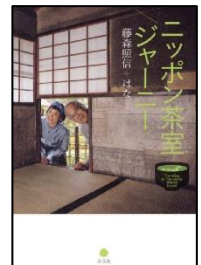
池井戸 潤【著】

東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷であるハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。地元の消防団に勧誘され、迷った末に入団した太郎だったが、のどかな集落でひそかに進行していた事件の存在を知り一。連続放火事件に隠された驚愕の真実とは？地方の小さな町を舞台にした、池井戸作品初の「田園」小説として話題を呼んだ、珠玉のミステリ。第36回柴田錬三郎賞受賞作。

『 ニッポン茶室ジャーニー 』

藤森 照信/はな【著】

建築史家の泰斗であり、異色の茶室建築家としても知られる藤森照信氏が「行ってみたかった」全国の名茶室を実際に訪問。お茶大好きの聞き手・はな氏との異色のコンビのもと、その成り立ちや特徴、時代背景、作り手の嗜好などについて、豊富な知識でわかりやすく解説。各地のお殿様や有力者、茶人らがこだわり抜いて作った、その大胆奇抜かつ自由な発想の面白さを伝えます。藤森先生が自ら手掛けた「あの茶室」もじっくりご紹介。月刊『なごみ』連載「ニッポン茶室ジャーニー」の書籍化。



『 東大教養学部が教える考える力の鍛え方 』

宮澤 正憲【著】

東大の教養学部で東大生が殺到する授業があります。それが、「ブランドデザインスタジオ」、通称、考える力の教室です。この授業は、「過去を知る学び」を得意とする東大生に、「新しいものを生み出す思考法」を体系的に学ばせたい、と2011年にはじまりました。「改善はできても、新しいものが生み出せない」日本人の多くが抱えるジレンマを解決！考え方のフレームを身に付けるだけで、誰でも魅力的なアイデアが出てくるようになります。新しいものを生み出す考え方を伝えたい、それが本書の目的です。